

令和2年度 第1回 公民館運営審議会 会議録

1 招集日時 令和2年7月14日(火)午後3時15分から4時30分

2 招集場所 文化センター 1階 ホワイエ

3 出席委員 14名

岩井定夫 委員長, 荻谷和佳代 副委員長, 小沼千秋 委員

森作浩子 委員, 山野稔 委員, 野口さち子 委員

鈴木真由美 委員, 渡邊豊 委員, 長谷川富子 委員

兼清扶司雄 委員, 中島由佳子 委員, 有村敬子 委員

黒崎雅貴 委員, 玉浦榮子 委員

4 事務局 10名

野口修一 教育部長

大津康彦 中央公民館長

岩井京子 はさき生涯学習センター館長

佐藤幸司 矢田部公民館長, 原正 矢田部公民館副館長

菅谷直美, 大島かおり

正木明美 若松公民館長, 高橋寿弥, 植木裕子

岡野章司 中央公民館副館長

5 案 件 報告第1号 令和元年度神栖市公民館事業の報告について

その他

6 開 会 午後3時15分

○委員長

令和2年度, 第一回公民館運営審議会を開会いたします。議題にあります会議録署名委員に有村委員, 会議録作成職員に中央公民館岡野副館長を指名いたします。

それでは「報告第1号 令和元年度神栖市公民館事業の報告について」を議題といた

します。

事務局から説明願います。

○事務局

「報告第1号 令和元年度神栖市公民館事業の報告について」説明いたします。この資料にある概要を説明した後、各館より具体的な内容について説明させていただきます。

公民館は、社会教育法の規定を受け、市民が「集う・学ぶ・結ぶ」と言った場として、市民のニーズに応えるべく、各種講座を開設し学習機会を提供するなど、市民にとって最も身近な学習拠点と言うだけでなく、交流の場としての役割があります。それは、市民が気軽に集い、教養を高める、コミュニティーを高める、そして、文化活動を通じて、その成果を生かし、豊かな社会生活を営めるよう事業を展開するものであります。その目的を達成するために、令和元年度では「4つの重点目標」を掲げ事業に取り組みました。まず、1つ目は、芸術文化の振興と技術習得及び食育・健康の増進を図るための教養ある講座の提供、2つ目は、主として青年期の学習意欲の向上のための学習機会の提供、3つ目は、世代間を越えての活動の広がりを目指し、事業を通じて連帯意識を育てる、4つ目は、誰でも気軽に集える公民館、以上であります。

では資料の説明に移ります。2ページから5ページが、令和元年度の各公民館の利用状況になります。2ページが中央公民館の利用状況で、年間開館日数は310日で合計利用者数は32,966人、次の3ページのはさき生涯学習センターは306日で25,912人、次の4ページの矢田部公民館は350日で51,609人、次の5ページの若松公民館は311日で30,435人、4館での合計利用者数は140,922人でありました。次に定期講座等の受講状況であります。この事業は、神栖市立公民館定期講座実施要項と定期講座及び市民カレッジ選定委員会設置要項に基づき、選定しております。令和元年度の、各種講座等は、市民の学習要求に応えるべく、講座のテーマを趣味、教養、食育、健康増進など、生活に即したものとし、また、各公民館の一般利用状況や昨年までの講座開設の状況を踏まえ講座を提供したものです。

6ページの1全館をご覧ください。令和元年度に公民館4館で141事業を実施しました。募集人数合計3,895人に対しまして、受講した人数は3,550人であり、受講者全体での男女の割合は男性1,052人で約30%、女性2,498人で約70%、男性の割合が去年より約2%増加しておりますが、未だに圧倒的に女性の割合が多い状況でした。

公民館の目的は、規定によりますと、生活のために、実際に即する事業を行い、教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興と社会福祉の増進に寄与することにあります。大切なのは「楽しんで学ぶこと」であり、楽しさ無くしては、次に繋がらないと

考えます。今後も公民館事業を展開する中で公民館や社会教育の魅力などを伝えられたらと考えております。また、公民館に対する市民ニーズは多種多様であり、講座受講者のアンケートや市民との会話、それから近隣市町村との意見交換など、情報収集に努めていますが、その市民ニーズに対応することが難しくなっています。そこで、引き続き市民ニーズの把握に努めつつ、従来の通り各種講座を前期、後期、短期などに分け、より多くの市民が参加できる様々な講座を開設し、選択の機会を増やすことで講座の充実、公民館の充実を図ってまいります。なお、具体的な内容については、各館より説明いたします。

○事務局

資料6ページ中段が、令和元年度の中央公民館の実績をまとめた一覧です。実施した講座等は50事業で、実施回数は205回、受講者延べ人数は2,993人でした。前年度実績では66事業を実施で、実施回数226回、受講者延べ人数は3,462人でしたので、人数は約14%の減となっております。

資料8ページをご覧ください。(1)の前期講座は9講座を実施、実施回数は88回、受講者延べ人数は1,258人でした。出席率では「子供の造形」が92%、「彩りおうちごはん」が90%と前年度に引き続き、高い数字を示しております。「健康整体」は募集人数18人に対して応募人数は半数の9人での開講となり、さらに長期欠席や途中でキャンセルした受講者がいたことで延べ人数66人、出席率も73%と低く、あまり芳しくない結果となりました。

次の(2)後期講座ですが、8講座を実施し、実施回数は80回、延べ人数1,188人でした。出席率で見ますと、比較的高かったのは「Step Up 英会話」と「子どもの裁縫」が共に91%、「大人のアクセサリ」が88%、「子どもの英会話」が87%となっております。「写真入門」は男性が参加しやすい講座として令和元年度にはじめて企画しましたが、募集人数が半数に満たなかったため、講師と相談し内部で検討した上で中止を決定いたしました。前期と後期でそれぞれ実施した「気軽に英会話」ですが、前期69%、後期60%と共に低く、今後の実施については見直しを検討すべきと考えております。

次に9ページの(3)短期講座をご覧ください。短期講座は18講座を実施し、実施回数19回、受講者数は369人でした。「浴衣の着付けにチャレンジ！」は応募者が募集人数の半数に満たず、講師と相談し、内部で検討した上で中止としました。子どもサイエンス「霧箱の製作実験～放射線の飛跡を観察しよう～」は講師の体調不良のため急遽中止とさせていただきます。3月に開催予定だった「パソコン初心者のためのWord講座」と「ほっとひと息カフェランチ」は新型コロナ感染拡大防止のため急遽中止とさせていただきます。これら中止とした講座は実績には含まれておりません。また、託児付き講座の「ヨーガ」と「ZUMBA」は応募状況からも好評であると考えております。

定期講座を通して見ますと、毎年健康系や子ども向け講座は根強く人気があり、募集開始当日に定員に達してしまう状況でありました。

次に(4)市民カレッジですが、令和元年度は「夏の天文学教室」「防災講座」を実施予定でしたが、「夏の天文学教室」は国立天文台に勤める太陽系天文学の先生に講師を依頼し、子どもも大人も楽しめる講座をと計画しておりましたが、前年度から目星をつけていた講師がいざアポイントを取ったところ年度内の日程の調整が困難である事がわかり、再交渉を試むと同時に代替の講師を探しましたが思うような結果が得られず、実施を断念いたしました。「防災教室」は子供向けのワークショップ形式の講座と家族向けの「自分と大切な人を守るための」講座として市内の同様の事業と重複しないよう内容と日程等調整しておりましたが、こちらも講師との連絡と準備不足等により調整がつかず、残念ながら中止とせざるを得ませんでした。年度内に2つの事業を流してしまうという事態になった原因は計画の段階で本来得るべきであった講師の内諾前に事を進めてしまった目測の甘さと、危機管理意識の欠如によるものであり、このような形で市民の学習機会を喪失させてしまった責任を重く受け止め、今後このような事が無いよう再発防止に努めてまいります。

10ページに移ります。(5)「はじめのいっぽ」は託児付き短期講座の際に参加者の方々からお預りした乳幼児を対象とした事業で、令和元年度は12回の実施で託児人数は75人でした。中央公民館では例年託児付き講座に力を入れているところではありますが、今年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から託児を受け入れることは困難と思われ、大変厳しい状況であると考えております。

次に(6)レクリエーション事業です。毎年恒例となっている「市民将棋大会」を開催しました。「カミスココくと歌って踊ろう！ミニコンサート」は3歳以上の未就学児童を対象に、歌とピアノを楽しみながら音楽に触れる機会を設けることを目指し、大変ご好評をいただきました。「はじめまして！美術館」は、茨城県近代美術館の学芸員が所蔵作品を紹介する「ハローミュージアム」と、白黒で出力した実物大の名画に絵の具で色を塗る「実物大の名画を塗ってみよう」の2部構成で開催し、美術に身近に触れる機会を設けることを目指しました。

次に(7)自主グループ支援事業ですが、登録団体は1団体で、登録会員数は18人です。

(8)作品展示事業は、講座作品展示が8件、公民館ミニ企画展が1件、各種団体の展示会3件、国・県・市事業作品展が2件ございました。中央公民館からは以上です。

○事務局

令和元年度はさき生涯学習センター定期講座等事業実績について、ご説明いたしま

す。資料6ページをご覧ください。下段は、はさき生涯学習センターの実績をまとめた一覧です。令和元年度の講座は47事業で224回、延べ人数は2,960人でした。前年度実績では、43事業197回、延べ人数は2,709人でしたので、延べ人数で比較しますと9%の増となっております。受講者数は、元年度816人で、前年度653人から25%の増となっております。

次に資料11ページをご覧ください。(1) 通年講座は、5月から2月まで開設期間で陶芸の1講座16回、延べ人数162人でした。平均出席率は92%、平均年齢は67歳でした。受講者の満足度は大変高く、楽しんで参加できたという声を多くいただきました。

次に(2) 前期講座は、5月から9月までの開設期間で「お仕事帰りのヨーガ」から「子どもジャズダンス」までの9講座86回、延べ人数1,148人でした。平均出席率は78%で平均年齢は52歳でした。その中でも運動系講座は、健康志向が高く、一人ではなかなか出来ないの、継続をお願いしたいという声を多くいただいております。また今回初めての楽器の講座「楽しいオカリナ」では、全8回の講座で出席率94%とよく、熱心に受講されました。また2階のロビーにて、受講生によるミニコンサートを開催し、来館者の方に披露、拍手喝采でした。オカリナの一部の受講生は現在も自主的に活動を行っております。また「書いて楽しいゆる文字」ですが、講座期間中に3回の作品を館内に展示しました。講座で学んだ成果を披露する場を設けるとやる気アップに繋がるので、講座の作品展示は今後も継続していけたらと考えています。また、「子どもジャズダンス」では楽しくとても良かった。また参加したいと、子どもたちも満足だったようです。講座の最後にはミニ発表会を行い、家族皆さんに観覧いただきました。

次に(3) 後期講座は10月から2月までの開設期間で「健康ヨーガ」から「癒しのアートパステリア書」までの8講座76回、延べ人数860人でした。平均出席率は79%、平均年齢は65歳でした。この中で「癒しのアートパステリア書」では出席率もよく、講師の指導と内容がとても良かったと好評で、作品展示も講座中に開催いたしました。また「心やすらぐ茶道」は毎週続けて全10回行ったことで、茶道の所作もよく理解でき、楽しく参加できたという声をいただきました。

次に資料12ページをご覧ください。(4) 短期講座は5月から2月までの開設期間で「小顔フェイシャルヨガ」から「親子でアクセサリー作り」までの24講座41回、延べ人数659人でした。平均出席率は95%で、平均年齢49歳でした。No. 25の「親子でハーバリウム」は申し込みが過半数に満たなかったため、中止となりました。その中で「素敵なアロマワックス缶とサシェ」では平均年齢41歳と若く普段利用の少ない年代が受講され、満足度も高く、「女子力アップさせたい」という意識高い人が多かったようです。今後も広報紙・ホームページ・ポスター掲示等で講座の告知を積極的に行ってまいります。「正月の生け花かざり」と「春の節句の生け花かざり」では季節に合わせた講座で、丁寧にわかりやすくご指導していただき、大満足でしたと感想をいただきました。「ゆかたの着付け」で

は、着物での挨拶の所作から着物のたたみ方までご指導いただき、大変充実した講座となりました。「目ざせ！血液サラサラ健康料理」では1時間半で4品時間内に実食でき、皆さんの満足度が非常に高かったようです。

次に(5)託児付き講座事業「はじめのいっぽ」では、「保育サポータータンポポ」のご協力をいただき、託児付き講座受講生の乳幼児をお預かりし、社会教育の一步を踏み出すということで、託児付き講座3つの内1講座に託児の申し込み1名がありました。

次に資料13ページをご覧ください。(6)レクリエーション事業は4事業で参加者延べ人数130名でした。内3事業は新規事業で夏休みに「ロボットをつくろう」「光のオブジェ」を、2月に「カミスコクと一緒にピアノと遊ぼう」では親子で参加していただき、楽しいひとときを過ごしていただきました。

(7)自主グループは平成30年度から引き続き令和元年度も自主グループの登録はございません。今後も講座修了時、公民館自主グループ認定制度の周知を行ってまいります。

次に(8)作品展示事業では公民館講座作品展示を5講座行いました。また、各種団体の展覧会では2団体の展示がありました。これからも積極的に発表の場を提供してまいります。はさき生涯学習センターからは以上です。

○事務局

矢田部公民館定期講座受講状況について報告いたします。7ページをご覧ください。実施講座数の合計が21講座、回数が90回延べ人数2,438人でした。次に、14ページをご覧ください。矢田部公民館定期講座等の事業実績について報告させていただきます。

前期講座ですが、「夜のゆったりヨガ」、「骨盤調整ストレッチ」につきまして、出席率は、両講座とも80%前後と、中弛みが起こりがちな全10回の講座としては、良かったように思います。通年講座での実施を望む声もありましたが、作品を作る講座と違い、参加費無料で休んでも支障のない講座では、とりあえず申込みしておき自分の都合で受講できればする、と云うような方に対しての対策が必要と考えます。現在でも、欠席の続く受講生に対し、電話連絡をしてなるべく出席するよう促している状況です。また、日中参加できない受講者は、夜間講座を希望されますが、後期の夜間となると、気候も寒くなるので、前期の方が好ましく、期間もある程度限られてしまう点や講師を見つける課題も残ります。「ビギナーズ英会話」は、中学生レベルの基礎英会話ということで、募集していますが、レベルの高い方が混在してしまい、積極的に会話をする人と、雰囲気圧倒されて何もできなくなってしまう受講生とに分かれてしまい、きっかけ作りの講座でも「ビギナー」向けは対策が難しく、解決方法が見い出せない状況です。ちなみにですが、平成30年度にも、中学校1年～2年生程度と具体的に募集表示を試みましたが、同様の結果になっています。「若さを保つ癒しのアロマセラピー」と後期講座の「ビーズ刺繍とアクセサリ

一」は、2講座とも講師に対する信頼度が高く、別講座を機会があれば受講したいという意見が多くありました。欠席等で遅れた方も、補習などで対応し、作品を作り上げることができました。「子ども絵画レッスン」は、例年人気の講座で募集もすぐに定員に達しますが、子どもが嫌がるのを保護者が無理強いして続かない、あるいは都合がつく時のみの出席するなど、こちらから出席を促しているものの課題は残ります。休まず受講している児童の作品からは、講師指導のもと、上達している様子が顕著に表れているので、今後も講座の継続をしていきたいと思えます。

短期講座は趣味教養6、その内、託児講座が2講座です。健康が1、親子2、の全9講座で実施しました。趣味教養の「自然派みそ作り」は基本のみそをベースに、黒豆・ピーナッツといった変わり種で作るため、とても人気の講座でした。グループ分けでの作業となりましたが、どの班も積極的に準備等を進め、コミュニケーションをとりながら和気あいあいと参加している様子でした。「自衛隊員から学ぶ身近な防災」は、当初受講生が思うように集まらず、行政区等に呼びかけをして受講を募ったところ、予想以上に集まってくることができました。アンケートの結果から、初めて受講された方が意外に多く、大勢の市民に認知してもらえる方法を考えることも必要だと実感しました。健康系の「部位別リンパセラピー」は、受講制限をかけてもキャンセル待ちが出るほど、申込の多かった講座でしたが、回数を重ねるごとに欠席者が増えてしまいました。講師の「リンパセラピーをよく理解してほしい」との考えから、前段の話が長くなり、実践的な施術方法を学ぶ時間が少ない上に、予定時間をオーバーすることもあったため、受講側が要望する「もう少し体を動かす講座」と云うようなものとのズレが課題になりました。親子講座では、夏季は「サンキatcher作り」、冬季に「クリスマスガーランド&カード作り」を実施しました。作品を完成させる過程での親子のコミュニケーション等は好評で、楽しく取り組んでいました。保護者の要望もあり、未就学児も同席して、見よう見まねで参加していたので、今後は小学生に限定することなく計画を検討しても良いのではないかと考えます。

次のページになりますが、文化講演会は、2回実施いたしました。1回目が、子ども向けのミュージカルで劇団東少による「3びきのこぶた」、2回目は、「凹まない生き方～尾木ママ流生きるヒント～」と題して、尾木ママこと教育評論家 尾木直樹先生の講演会を実施しました。集客率につきましては、前年度同様約80%でした。

作品展示事業はロビーにおきまして、はさき自警団による防犯ポスターの展示、芸術祭移動展、原爆展、消防署による秋季全国火災予防運動ポスターの展示、生きがい講座作品の展示と、新たに写真連盟の作品展示を実施しました。説明は以上になります。

○事務局

令和元年度若松公民館定期講座等事業実績についてご説明いたします。資料7ページをご覧ください。令和元年度の定期講座のテーマは「伝統と文化」で、異文化交流や、伝統的な事柄に触れる機会を持つことに重点を置いて、計画・実施いたしました。実施講座は22事業、募集人数は285人、受講者数は282人でした。

前年度の実績は講座数は16事業、募集人数は285人、受講者数は246人でしたので、受講者数で比較いたしますと14.6%の増となります。

続きまして16ページをご覧ください。(1) 通年1講座についてご説明いたします。「金具使いのビーズアクセサリー」は、例年人気が高い講師の講座で、平均年齢は57歳、全15回の出席率は86%でした。講師のオリジナルデザインの作品を、丁寧な指導で学べることから、受講者のほぼ全員から満足との回答をいただきました。

(2) 前期3講座につきましては「腰痛改善ストレッチ」は、幅広い年齢の参加があり、平均年齢は62.6歳、出席率は73%でした。腰痛の改善や姿勢が良くなったことを実感したという感想や、継続希望の声を多くいただきました。「初めての油絵」は募集定員の半数の申込みがあり、全9回の予定で開講しましたが、60代、70代の受講者が多く体調が悪くなったり、家族が入院するなど、回を追うごとに参加者が減少したため、回数を3回短縮し、全6回で閉講としました。「華道・花を楽しむ」は、10名の募集に対して、4名の申し込みとなり、中止となりました。

(3) 後期3講座につきましては「健康整体」は、仕事をしている方が参加しやすいよう 平日の夜間に開講しましたが、豪雨など悪天候の影響で出席率は56%にとどまりました。毎年アンケート結果で希望が多く、継続で実施していますが、自主グループ等で活動する方が増えたことから、申込の減少傾向がみられます。「小仏彫刻入門」は、初めての試みでしたが、10名の募集に男性6名の参加があり、男女の比率が男性の方が高いという唯一の講座となりました。平均年齢は66.8歳、全8回の出席率は80%でした。無心になって仏像を彫るという 穏やかな時間が持てたと好評で、今後も続けたいという意見が多く寄せられました。「かな文字書道」も、初めての試みでしたが、多くの方に興味を持っていただき、キャンセル待ちがでるほどでした。平均年齢は65.3歳、全8回の出席率は93%と高く、完成した作品をロビーに展示したことで、受講者の満足度が高まったようです。

(4) 短期15講座についてご説明いたします。令和元年度から新たに実施した短期講座は「バレリーナヨガ」「ブラジル料理」「百人一首の世界」など 8講座でした。対象を小学生または中学生以上とした講座が5つあり、「百人一首の世界」「競技かるた入門」「ゆかた帯結び」では、親子で参加した方もいて、楽しい時間を過ごせたという声を多数いただきました。また、仕事をしている方や 男性が参加しやすいように土曜日の日中に4、土曜日の夜間に1、日曜日の日中に8講座 開講しましたが、男性の参加があった講座は「ボクサビクス」「シニアのためのスマホ教室」「バレリーナヨガ」「新米ママの読み聞かせ」「写経」「座禅」「百人一首の世界」の7講座で、短期15講座の受講者数は 男性11名 女性194名 男女の比率は男性が 5.4% 女性が94.6%で、平均年齢は 48.6歳でした。出席率が100%の講座は「華やかしめ飾り」「インテリア押し花」「新米ママの読み聞かせ」「花を

楽しむ・クリスマス寄せ植え」の4講座で、次いで「花を楽しむ・お正月アレンジ」「シニアのためのスマホ教室」が93.3%、「光に映えるハーバリウム」が92.9%と続き、15講座の平均出席率は85%でした。

資料17ページをご覧ください。(5)託児付講座事業につきましては、乳幼児を対象とした「はじめのいっぽ」を、保育サポーターたんぽぽのご協力をいただき、「新米ママの読み聞かせ」を託児付講座として実施いたしました。1組ではありますがパパとお子様での参加があり 講座で学んだことを日々実践されていると聞いています。

(6)自主グループ支援事業につきましては、令和元年度の登録団体は、「健康整体」の1団体で 登録会員数は10名でした。

(7)作品展示事業につきましては、講座受講生や講師による作品展示が7件、各種団体の展示会はうずも美術協会による「林の中の美術展ファイナル」など 10件でした。若松公民館からは以上です。

○委員長

説明が終了いたしましたので、これより質疑に入ります。

○委員

矢田部公民館のロビー・ホワイエの利用者が増加していますがこの要因は为什么呢。若松公民館の展示室の利用者が平成30年、令和元年と急激に増加している要因は为什么呢。

○事務局

矢田部公民館のロビー・ホワイエの利用者増加の要因ですが、一つは文化ホール利用者の休憩場所として利用されたこと、もう一つはロビー・ホワイエに団体、個人に作品展示をお願いし、来館者にその展示の紹介をさせていただいたことが増員の要員であると考えております。

○事務局

若松公民館のギャラリー利用者増員の要員ですが、当館ギャラリーを要する街角ギャラリー事業は文化スポーツ課所管の事業であります、その事業実績を利用人数として計上したことが増加の要因であります。

○委員

講座募集人員を当初から絞られているようですが、中央公民館の前期講座「健康整体」は受講者が募集人数のほぼ半分ですが全10回の8回、9回、10回それぞれの出席者の人数を教えてください。はさき生涯学習センターの後期講座「かぎ針編みと某針編み」

の同じく 8 回, 9 回, 10 回の出席者の人数を教えてください。

○事務局

中央公民館後期講座「健康整体」は募集人数 18 人に対して応募人数は半数の 9 人での開講となり,さらに長期欠席や途中でキャンセルした受講者がいたことで延べ人数 66 人,出席率も 73%と低く,あまり芳しくない結果となりました。なお, 8 回, 9 回, 10 回の出席者はそれぞれ 7 名となっております。

○事務局

はさき生涯学習センター後期講座「かぎ針編みと某針編み」ですが,定員 20 人に対して応募者は 10 人でした。回数は全 8 回でしたので最後の 3 回で申し上げますと 9 人, 7 人, 7 人で行いました。

○委員

公民館講座は募集人員の半数が集まらない場合は実施しないという決まりがありますが,開講後のキャンセルや欠席等途中で少なくなった場合はどこまで実施するのかあるいは中止するのかとの疑問があります。例えば募集人数の半数以上を満たして開講したとして,途中キャンセルで半数を割ってしまった場合,極端な話 2, 3 人になってしまっても継続するのか,あるいは中止するのか,募集要項で「最後まで参加出来る方」と但し書きはありますが,募集前にそのような事態を想定して取り決めをしておくべきだと思います。また中央公民館のかみす市民カレッジについてですが,2 講座とも調整がつかずに中止とのことですが,公民館は社会教育施設であり,その社会教育でも重要な位置にあるのが市民カレッジであると思いますので,何かしらの代替案を立てることは出来なかったのでしょうか。

○事務局

本来であれば計画した講座の実施が危ぶまれれば速やかに代替の講座を探すべきでしたが,計画段階での見積りや危機管理が甘かったことがこのような結果を招いてしまいました。今後はこのような事が無いよう再発防止に努めてまいりますので,よろしく願います。

○委員

当該年度末は新型コロナ感染防止対策により講座の実施が困難であったにも拘わらず,実績は伸びているとのご説明だったので大変喜ばしいことと思います。この審議会に参加させていただいてその度に思うのは,市民の方々のニーズを把握して受講者を募ることは大変難しい作業であり,場合によっては受講者がキャンセルしたりする事もあるかと思えます。その上で思うのは,説明だけではなく資料に受講者の伸び率等を目視出来るよう示すと大変分かり易く,それを共有することにより今後の目標をより明確なものとする

ことが可能ではないかということです。せっかくの実績を資料として残さないで説明だけで済ませてしまうのは如何なものかとも思いますので、ここで提案させていただきます。自主グループについてですが、自主グループの育成は公民館の大変重要な役割であると考えておりますが、説明では現在活動している自主グループは中央と若松の各1グループの計2グループのみであり、はさきでは「オカリナ講座」から自主グループが育ちつつあるとのことですので、是非自主グループ育成を公民館の重要な目標の1つに掲げていただきたいと思います。矢田部公民館の作品展示事業についてですが、他館で行なっている定期講座の作品展示を矢田部公民館でも検討していただきたいと思います。

○事務局

ご提案いただきました受講者の伸び率のパーセンテージを資料に示すことにつきましては、早速次回の資料から取り入れたいと存じます。またその資料を精査・分析した上で受講者から今何が求められているか、そしてどのような講座を企画するべきかという目標を明確なものとし、それが実現出来るように尽力してまいります。

○事務局

矢田部公民館ですが、定期講座の作品展示につきましては毎年検討しているところですが、多くの講座が作品の完成をもって終了というカリキュラムである都合上講座終了後は家族に見せたい等の理由からすぐに作品を持ち帰りたい受講者の方も多く、なかなか作品展示に至らないという現状ではありますが、今後も展示が出来るよう検討していきたいと考えております。

○委員

資料を拝見させていただいた所感ですが、やはり男性の参加者が圧倒的に少ないと感じます。運動系の講座は参加者が多く出席率も高く人気があるようですが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で運動系の講座は軒並み中止となっているので、今年度の実績報告は残念な数字になるのではと予想しております。このような状況でありますので、男性も含めて運動等身体を動かす機会づくりを市の事業で出来ると良いのではないかと思います。

○委員

前回の審議会では定期講座の申込方法の多様性を認めて欲しいとお願いしましたが、それについてはその後検討していただけたか。令和2年度の定期講座は新型コロナにより多くが中止となり、実施するものは電話受付のみ、人数も制限する等を市のホームページで丁寧に説明がなされてるようですが、電話以外の受付方法は検討されているのでしょうか。

○事務局

従来の定期講座の申込は受講者に来館して申込書を記入していただき先着順で受付をしておりましたが、早朝の施設開館前から行列が出来る等で受講者に負担をかけることが懸案事項となっております。今年度は定期講座の受講申込は、現時点では社会状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染防止対策により電話での受付を主として行なっておりますが、事態が沈静化した折には多くの市民の方々に講座を受講していただくためにも、先着順だけではなく抽選制やネット予約等についても検討していく所存ですのでよろしく願いいたします。

○委員

検討されている申込方法の中でメール申込は視野に入っておりますか。電話だと時間帯が限定されているため日中お仕事をされている等で申込がし辛い方もいらっしゃると思います。メールであれば時間帯を選ばず申込が出来ますし、受付側も処理が容易だと思います。導入にあたってはシステムの構築や予算等色々と課題もあるかもしれませんが、社会情勢に添った多様な申込方法を取り入れていくのか、従来通りの方法をとるのか、十分精査、検討していただきたいと思います。

○委員長

この件につきましては、事務局で次回までに検討していただくということによろしいでしょうか。他にご質問はありますか。

○委員

今年の芸術祭では、矢田部公民館の作品展示は大変良い形で実施することが出来ました。これは改修により施設がきれいになったことで作品が映える展示が出来たことはもちろんですが、公民館の職員の方々が非常に協力的であったことが大きいと思います。この場をお借りして改めて感謝申し上げる次第です。

○委員

今はテレビや様々なメディアで子ども達が興味を引く事柄が発信されており、公民館でもそれらを積極的に取り入れた講座を企画していただきたいと思います。新型コロナにより外出が難しい今でこそ、市の施設である公民館で子どもや親子が楽しんで参加出来る講座を実施していただけるとよろしいかと思えます。

○委員

先程の説明の中で4つの重要施策の1つとして青年期の学習意欲の向上のための学習機会の提供とありましたが、実際には公民館の講座に参加されている方の平均年齢は若干高めであると思われませんがその辺はいかがお考えでしょうか。

公民館講座の申込方法についてですが、自分は神栖市以外でも講師として招かれています。その多くではネット申込を取り入れています。比較する意図はございませんが、

貴市の今後の動向については大変興味深く注視している次第です。

○委員

ネット申込については当審議会でも過去何度か話題に出ておりましたが、現時点での公民館利用者の多くは高齢者であることを考慮すると、従来の先着順での受付を完全に廃止するのはいかなるものかと思えます。

○委員長

色々質疑が出ましたが、それらについては事務局でそれぞれご検討いただけるとありがたいと思えます。

他に質疑が無いようですので、「報告第1号 令和元年度公民館事業の報告について」は終結いたしますが、ご異議ございませんか。

(全員意義なし)

○委員長

異議なしと認め、報告済みとします。

以上で令和元年度第1回公民館運営審議会を閉会いたします。

長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。お疲れ様でした。

令和3年 2月 日 委員長 岩井 定夫

会議録署名委員 有村 敬子